

ドイツから見た米国経済

—米国経済再浮上—

2012年1月10日

山本利久

これは2011年12月5日付 FT Deutschland(ドイツ連銀 Auszuege aus Presseartikeln NR.51 2011/12/7 に転載)に掲載されたオハニアン氏の記事を要約したものである。最近暗いニュースが世界を駆け巡る中、米国経済に一条の明かりが出て、世界が今後の展開を期待している。欧州の見方が何かの参考になればと考え、このレポートを作成した。

米国経済は急速な回復の前夜にある。主な景気指標は世界第一の経済大国がこの数ヶ月間力強く成長していることを示している。11月の失業者数は2年半前と同様の水準にまで減少してきた。米国の自動車メーカーは3月、日本で起きた原発災害後落ち込んだが、再び完全に回復した。住宅市場に於ける痛みを伴った調整が広範囲で終了している。第4四半期、経済は年率換算、凡そ3%上昇する見込み、とユニクレディットの米国経済専門家バンドホルツ氏は述べた。経済活動がこれほど強い伸びを示した四半期は2011年を通して他になかった。

つい最近まで多くの景気懐疑論者達は米国経済のリセッションに対する警告を発していた。今明らかになったことは：経済に対する信頼が夏の債務論争が終わり、再び明瞭に確立したことである。世界中の多くの景気指標が下降を示す中、米国の製造・サービス部門の指標は再び成長コースに入ってきた。2週間前に行われた共和党と民主党の支出削減に関する妥協議案が失敗に終わったが、今現在それに関して何の影響も起きていない。

反対に、“ほぼ全ての景気に関する報道はここ数日極めて良好となっている”、とバンドホルツ氏は述べた。そして11月の失業率は、米労働省が12月2日に公表した如く、9.0%から8.6%に低下した。就業者数は12万人増えた。同時に3か月前の数字ははっきりと上方修正された。“景気回復は殊の外確実”、とユニクレディットの専門家は見ている。比較として：ユーロ圏では、欧州統計局が先週失業率の10.2%から10.3%への引上げを報じた。これはユーロ導入後の最高の数字である。

購買担当者間を訪ね回る調査も又反対の景気情勢を描き出している。大変注目される先行指標が米産業界で11月1.9ポイント上昇、52.7ポイントとなった。これで指標は再び成長の敷居である50ポイントを越えた。欧州では同じ指標がこれに対して、数ヶ月前から景気収縮過程を示し、しかも直近ではその速度を速めている。

現在米国景気の立ち上がりから自動車産業が特に強くその恩恵を受けている。自動車業界は日本ショック後の厳しい落ち込みから完全に挽回した。欧州景気とは逆に、米国の生産活動は困難な環境に耐え忍んだ一特に自動車産業の生産は日本の大震災後抜け目のないサプライチェーンが大打撃を受けたのだ。11月2日に報道された様に、11月には年換算で1360万台の車が10月より3%も多く販売された。生産の方も又今年2月の水準を再び初めて越えた。この生産の落ち込みが夏場に於ける米国経済の成長鈍化の決定的要因であった、とバンドホルツ氏は語った。

実際米国の消費者は尚金融危機以前と同水準の自動車を購入してはいない。1994～2007年
の間、年間凡そ 1500 万～1780 万台の乗用車が販売された。しかし傾向は上向きである。
これは 11 月 40.9 から 56 ポイントへと、目に見えて上昇させた消費者信頼感を確認するも
のである。尚この上昇は 2003 年 4 月以来最も高い月間上昇率である。米国の消費者達は労
働市場、個人所得と同様、経済全体の今後数ヶ月間に亘る改善を期待している。間もなく
クリスマス商戦の開始を告げる”ブラック・フライデー”について、既に欧州の小売業レポー
トは 12 月の好調な売り上げ期待を取りやめてしまった。

最近の指標は、債務危機を乗り越えて米国経済のダイナミズムが持続されることを示した、
とポストバンクのエコノミスト、ハイドリッヒ氏は語った。ゴールドマン・サックスの主
任エコノミスト、ハジウス氏は、米国経済が暦年の第 4 四半期凡そ 2.5%成長するものと見
ている。これまで彼は僅か 2%と査定していた。

個人消費の成り行きに大きな影響を及ぼす住宅市場の上昇が続いている。5 年前から市場は
調整過程にある。ゴールドマン・サックスの専門家によれば、この間調整は実行できなか
った。それがあつたモデルの助けで、彼等は米国の不動産価格が今初めて小口で適正な水準
に収縮されることを発見した。不動産価格は安定化し、そしてやがてそれが上昇を支援す
ることになる、とニューヨークの UBS 証券主任エコノミスト、ハリス氏も期待を寄せてい
る。

(了)